

## 抄録記載ルール

YNSA 学会ではわかりやすい抄録集を作成するために、一定のルールに則って作成していただくよう基準を設けました。抄録作成に際しては必ず以下の点に注意して作成し、基準を満たしているかを確認してから、投稿していただきますようお願い致します。

なお、YNSA学会の発表に適さないと学会が判断した場合には、発表をお断りする場合がありますことをご了承ください。

### ☆抄録記載のポイント

1. 発表は原則として山元式新頭鍼療法（以下 YNSA）に関するものとする。ただし YNSA と直接的に関係ない場合は、その関わり合いが抄録内で明確にされていればよい。
2. 構造化抄録、つまり【目的】【方法】【結果】【考察】【結語】の形式で記載されている。ただし、症例報告の【方法】は【症例】【現病歴】【所見】などに、【結果】は【治療】【経過】などに変更することが出来る。
3. 【結果】は数値や有意差検定の結果などで具体的に分かりやすく記載されている。症例報告の場合も数値があるのが望ましいが、改善の様子が分かるよう具体的な症状の変化を記載してもよい。
4. 【考察】は結果に対する自分の考えが論理的に記載されている。（内容が飛躍しすぎないように努める）
5. 【結語】は、発表のポイントとなる事項について端的に記載されている。
6. キーワードは発表に出てくる言葉で、そのポイントとなる用語を3つまで記載する。
7. 研究の目的が明らかでないもの、発表に値する研究結果の記載がないものは不採択とする。
8. 医学常識上、問題のあるもの、他の学会で既に発表したものは不採択とする。
9. 患者のプライバシー保護に考慮し、患者が特定されないよう留意し倫理的に配慮されている。症例を報告する場合は患者の同意を得ることとし、できれば文書による同意を得ることが望ましい。
10. 演題名の文字数は全角 60 字以内とし、メーカー名、薬剤コード番号は入れない。
11. 筆頭演者は必ず発表者とし、演者は最大 8 名（筆頭演者を含む）までとする。
12. 所属は最大 7 施設（筆頭演者の所属を含む）とする。所属名は、勤務の方は主たる勤務先（大学・研究所・病院・公的研究所など）とし、開業の方は、公的に登録されている診療所・薬局などとする。私的な研究会などは不可とする。
13. 抄録本文の文字数は全角 600 字以上 800 字以内である。
14. 筆頭演者は学会会員であること。なお、共同演者は学会会員でなくて可。
15. 採択された場合、著作権は YNSA 学会に帰属するものとする。
16. YNSA の表記方法 別紙参照

本学会の演題登録の際にお預かりいたしました「氏名」「連絡先」は、事務局よりのお問い合わせや採否・発表通知に利用いたします。また、「演者名」「所属」「演題名」「抄録本文」は、講演要旨集およびホームページに掲載することを目的として利用いたします。他の目的には使用いたしません。

### 【抄録原稿作成要項】

※ なお、誤字脱字に関しては自己責任となるために必ずダブルチェックを心がけてください。

# (別紙)YNSA に関するカルテ表記基準

2013年7月に発売された『山元式新頭針療法 YNSA』に準拠する

【YNSA 診断】必ず反応のあった診断点を表記する、左右もあわせて表記すること。

**合谷診**：左右

**首診**：腎臓 腰椎 胸椎 頸椎 脳  
膀胱 肝臓 胆のう 心包 心  
大腸 小腸 膵臓/脾臓 胃 三焦 肺  
口腔診断点

**上腕診**：大脳 脳幹 小脳 頸椎 胸椎 腰椎

**腹診**：脳幹 大脳 小脳 心 心包 胃 十二指腸 胆のう 膵臓/脾臓  
肺 肝臓 小腸 三焦 大腸 膀胱 腎臓 頸椎 胸椎 腰椎 仙骨

例： 左合谷  
首診：左頸椎、左脳、左肝臓、左胆のう  
腕診：左頸椎、左脳幹  
腹診：診察せず

【YNSA 治療】必ず使用した治療点を表記する、左右もあわせて表記すること。

**基本点**：ABCDEFGHIJKL  
陽を使った場合は表記する。陰の場合は表記の必要はない

例： 左A点（陽）

**感覚点**：目 鼻 □ 耳 耳鳴1 耳鳴2 耳鳴3 耳鳴4  
口腔点・上顎点 □ 口腔点・下顎点 声帯点  
陽を使った場合は表記する。陰の場合は表記の必要はない

例： 右目点（陽）

**脳点**：脳幹 大脳 小脳 インド脳  
陽を使った場合は表記する。陰の場合は表記の必要はない

例： 左脳幹点（陽）

**脳神経点**：嗅神経 視神経 動眼神経 滑車神経 三叉神経 外転神経 顔面神経 内耳神経  
舌咽神経 迷走神経 副神経 舌下神経

例： 右視神経点  
脳神経点（腎臓）

**Y 点**：腎点 膀胱点 心包点 心点 胃点 三焦点

小腸点 脾臓脾臓点 肺臓点 肝臓点 胆のう点 大腸点

ブロッカー失語症 ウェルニッケ失語症

『弱い陰』『強い陽』『弱い陽』を使用した場合は表記する。『強い陰』の場合は表記の必要はない

例： 左肝臓点（強い陽）

**サギツータルソマトトープ**：頭 首 肩 肘 手 腰 膝 足などの身体部位を表記する

陰陽の表示を行う

例： サギツータルソマトトープの左足（陰）

**JとKのソマトトープ**：頭 首 肩 肘 手 腰 膝 足などの身体部位を表記する。

例： Jソマトトープの右手

**胸部ソマトトープ**：頭 首 肩 肘 手 腰 膝 足などの身体部位を表記する。

**恥骨部のソマトトープ**：脳 A B C D

**マスターキー点**：上体部のマスターキー 下体部のマスターキー

**Iソマトトープ**：頸椎 胸椎 腰椎 手 肘 足 膝 脳 耳鳴

交感神経 副交感神経

**頸椎と胸椎のソマトトープ**：頭 首 肩 肘 手 腰 膝 足などの身体部位を表記する。

**その他**：肘頭点

下腹部のYNSA 診断と治療点

ソレウス点（YNSA ひらめ筋の診断と治療点）

口腔治療点

など